

参考資料



- 1 利用状況と空間特性
- 2 区民ニーズの把握
- 3 検討体制・検討経過

参考資料

基本構想の策定過程で実施した利用状況調査の詳細、空間特性分析から導かれるゾーンごとの課題、区民ニーズの把握を目的に実施した勉強会や各種アンケート調査の結果等を示すとともに、検討体制や検討経過を参考資料として整理しています。

1 利用状況と空間特性分析	利用状況調査（第2章）と、空間特性分析による課題（第3章）のより詳細なデータを示しています。
2 区民ニーズの把握	基本構想の検討にあたって区民ニーズを把握するために実施した勉強会や調査の結果を示しています。 <ul style="list-style-type: none">・平成28年度第1回プロムナード勉強会・平成28年度第2回プロムナード勉強会・平成29年度第1回プロムナード勉強会・平成29年度第2回プロムナード勉強会・平成29年度第3回プロムナード勉強会・高島平緑地の利用状況に関するアンケート調査・バリアフリー推進協議会等への意向調査
3 検討体制・検討経過	基本構想の策定に係る庁内外の検討体制・検討経過を示しています。

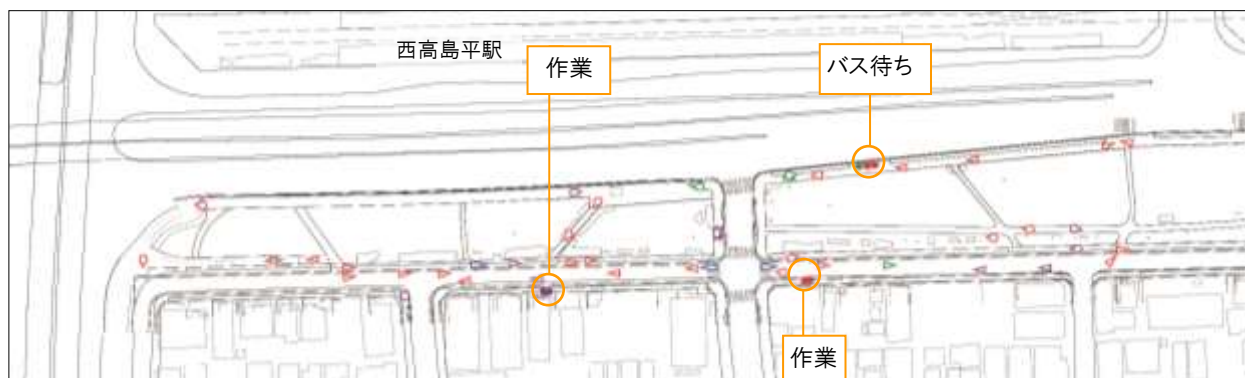
1 利用状況と空間特性分析

(1) 利用状況調査結果

本編第2章（P16～17）掲載の利用状況調査の詳細結果を示します。

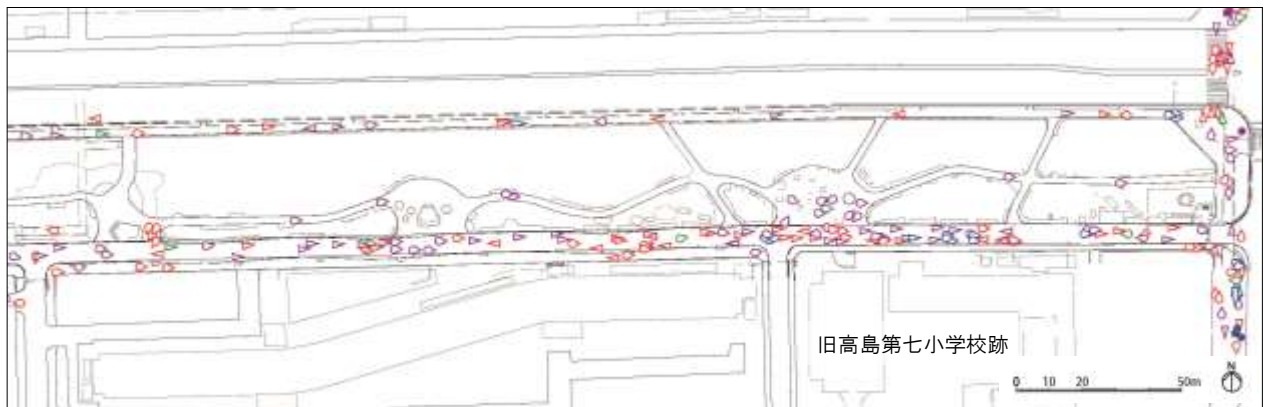
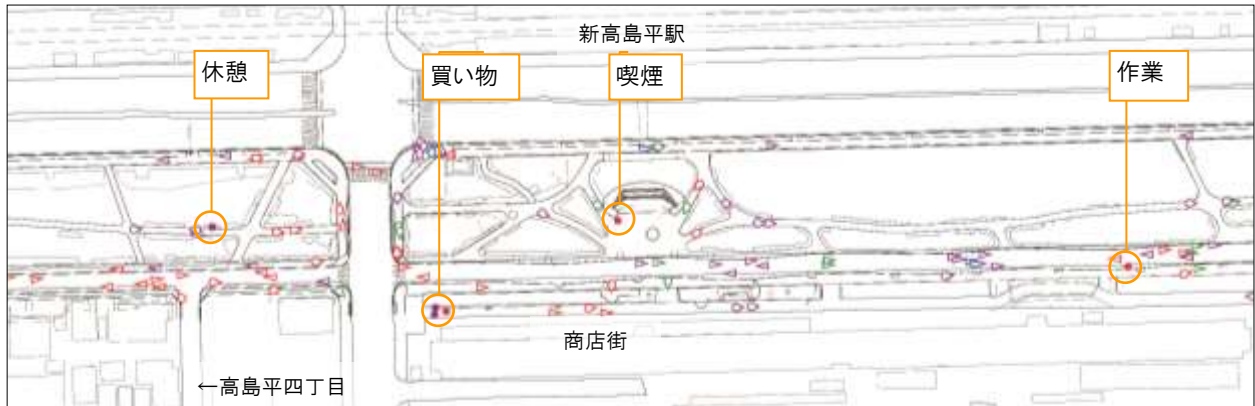
■東西軸：西高島平駅～高島平駅

- ・東西軸の西側では、東側から西側にかけて、利用者が少なくなる傾向があります。
- ・利用者の多くは、移動を目的とした利用（歩行、自転車通行）をしており、滞留活動は少ない傾向にあります。
- ・歩行者、自転車ともに、区道の通行が多い傾向にあります。
- ・区道以外の通行は、自転車は高島通りの歩道、歩行者は緑地内の通行が多い傾向にあります。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	▷	▷	▷	▷
自転車 (→)	▷	▷	▷	▷

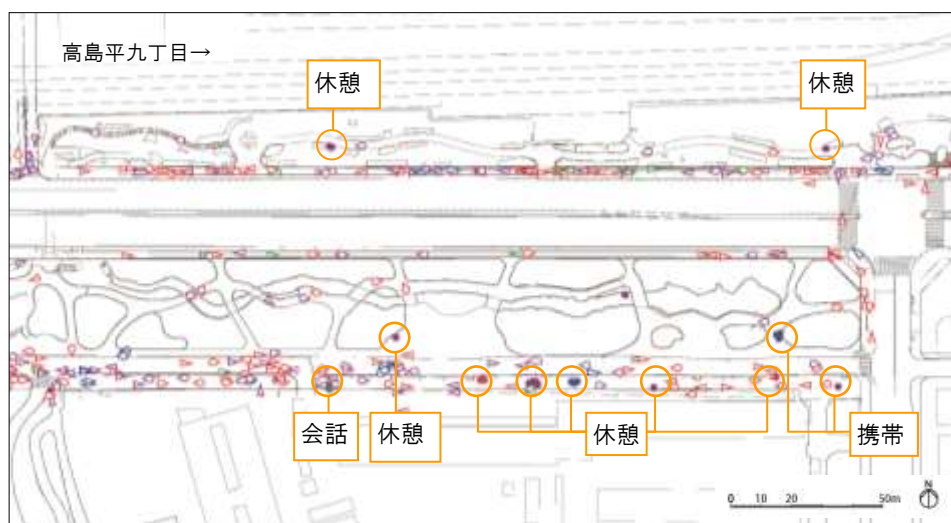
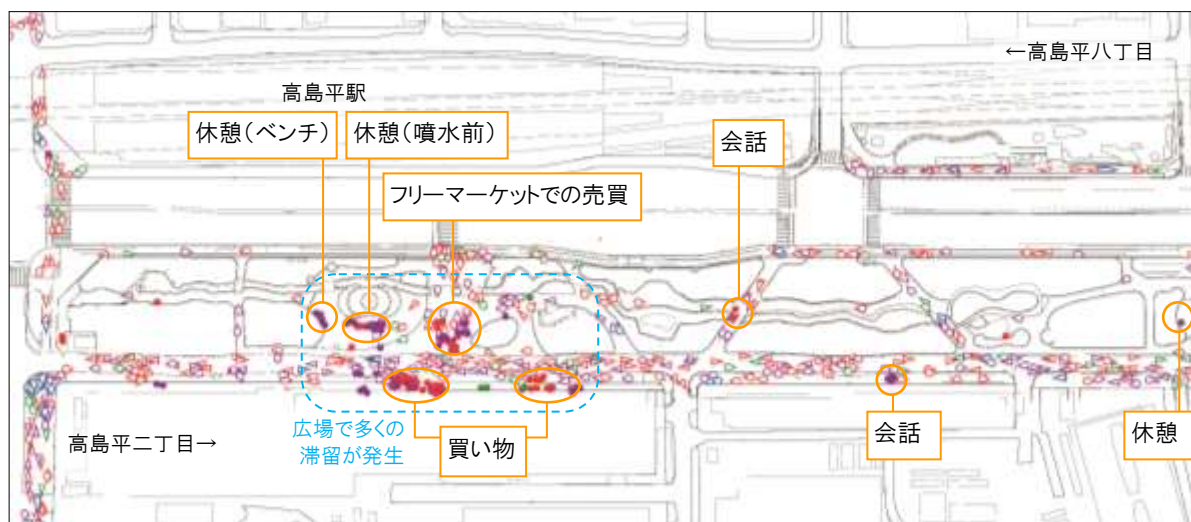
- ・旧高七小跡地北側の区道は、多くの利用者に利用されています。
- ・自動車の通行が制限されている高島平三丁目の区道は、高島平四、五丁目と比較すると車道部分を通行する歩行者が多くなっています。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	○	○	○	○
自転車 (→)	▷	▷	▷	▷

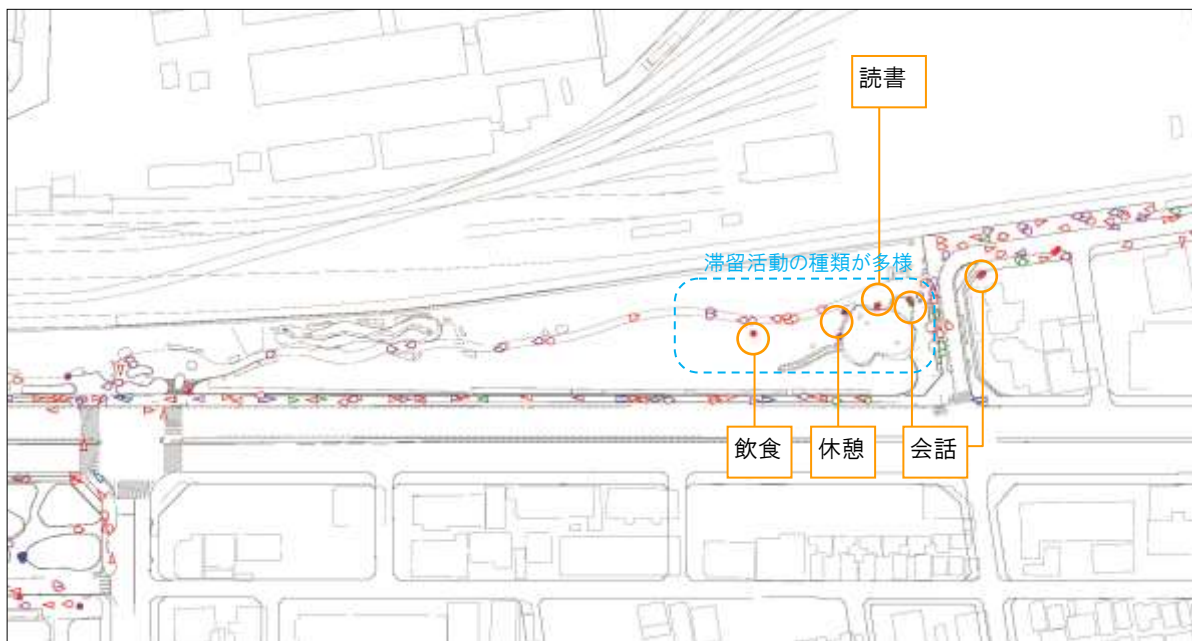
■東西軸：高島平駅～西台駅

- ・滞留は高島平駅前の広場に集中しています。
- ・高島平二丁目の西側の区道、西台駅周辺、高島通り北側の歩道では、多くの通行者が見られます。
- ・高島通り南側の歩道の通行者は、横断歩道周辺を除くと、少ない傾向にあります。
- ・緑地内の通行者は、少ない傾向にあります。
- ・高島平駅前以外の広場の利用者は、少ない傾向にあります。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	▷	▷	▷	▷
自転車 (→)	▷	▷	▷	▷

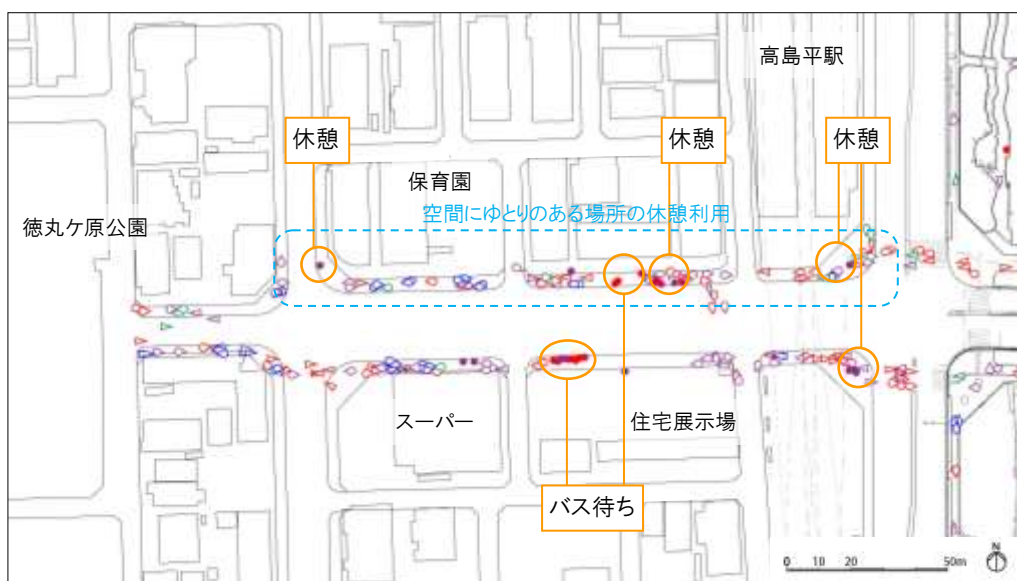
- ・高島平二丁目の東端では、区道の歩道に設置されたベンチが、多くの利用者に休憩目的で使用されています。
- ・高島平九丁目の緑地東端では、他の場所と比較して多様な滞留のバリエーションが見られます。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	○	○	○	○
自転車 (→)	▽	▽	▽	▽

■南北軸：徳丸ヶ原公園～高島平駅

- ・南（高島平駅）側の方が利用者は多い傾向にありますが、北（徳丸ヶ原公園）側の利用者も少なくありません。東西での偏りも、大きくはありません。
- ・移動を目的とした利用（歩行、自転車通行）が多く、滞留は限定的です。
- ・交差点部分の歩道が広がっている場所やバス停脇等、動線を妨げない場所で滞留が多い状況です。
- ・北端の幅員が狭くなっている道路では、車道を通行する自転車が見られます。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	▷	▷	▷	▷
自転車 (→)	▷	▷	▷	▷

■南北軸：高島平駅～都立赤塚公園

- ・北（高島平駅）側の方が利用者は多い傾向にありますが、南（都立赤塚公園）側の利用者も少なくありません。東西での偏りは、やや東側の方が多い傾向にあります。
- ・移動を目的とした利用（歩行、自転車通行）が多く、滞留は限定的です。
- ・自転車通行帯の設置の有無にかかわらず、歩行者と自転車の通行の分離は、徹底されていません。
- ・民間屋内プール施設付近では、待ち合わせを目的とした滞留が多い状況です。



凡例	子ども・家族連れ	若者	大人	高齢者
滞留	●	●	●	●
歩行者 (→)	▷	▷	▷	▷
自転車 (→)	▷	▷	▷	▷

(2) 空間特性分析による課題

本編第2章 (P22) 掲載の空間特性分析による課題を利用する人々の動き (動線) や、既存樹木や園路等プロムナード内の配置 (空間構成) の観点から、より詳細にゾーンごとに改善点等を整理しました。

■西台駅周辺ゾーン

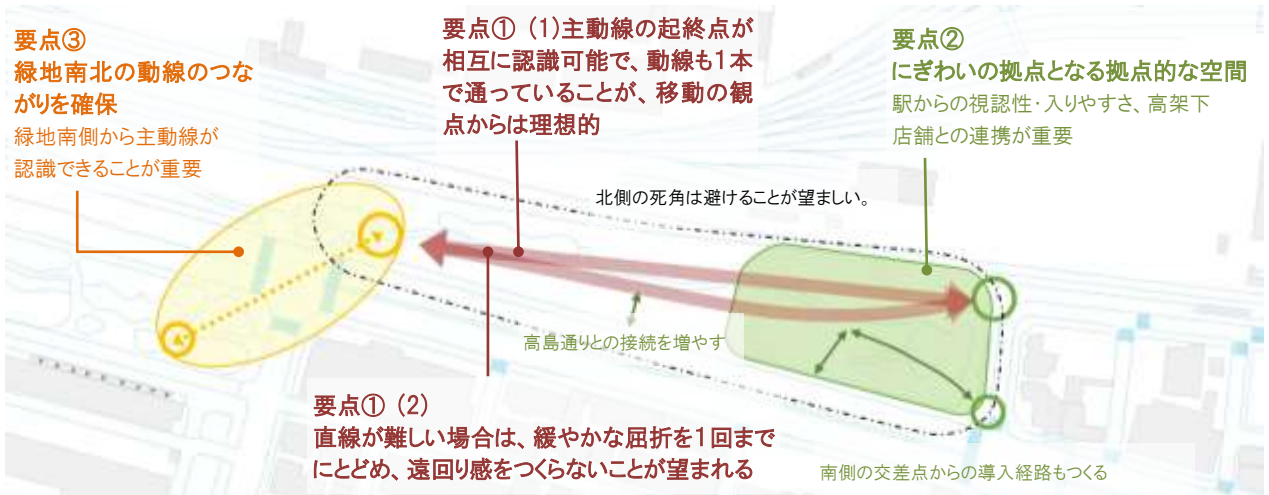


緑地入口は入りづらい印象(要点①②)



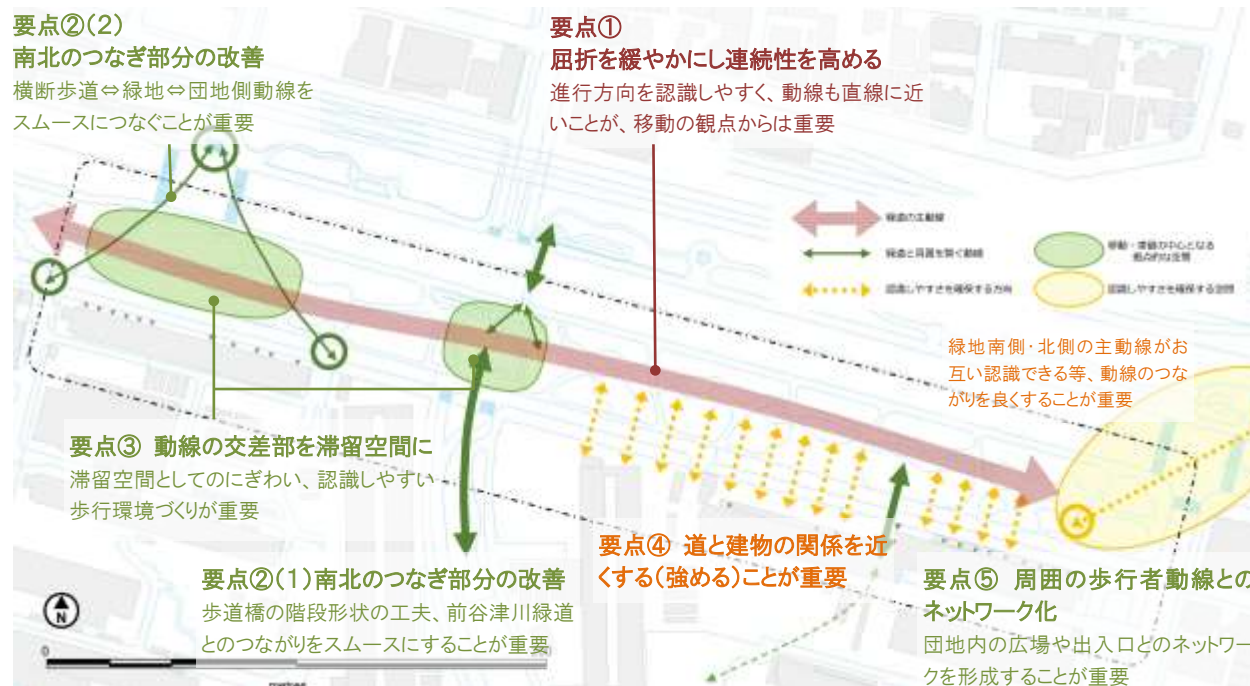
駅から緑地への視認性が確保されている(要点①)

■三田線高架沿いゾーン



「見える」と「行ける」を一致させる(要点①)

■前谷津川緑道周辺ゾーン



屈折が強く、連続性が低い(要点①)

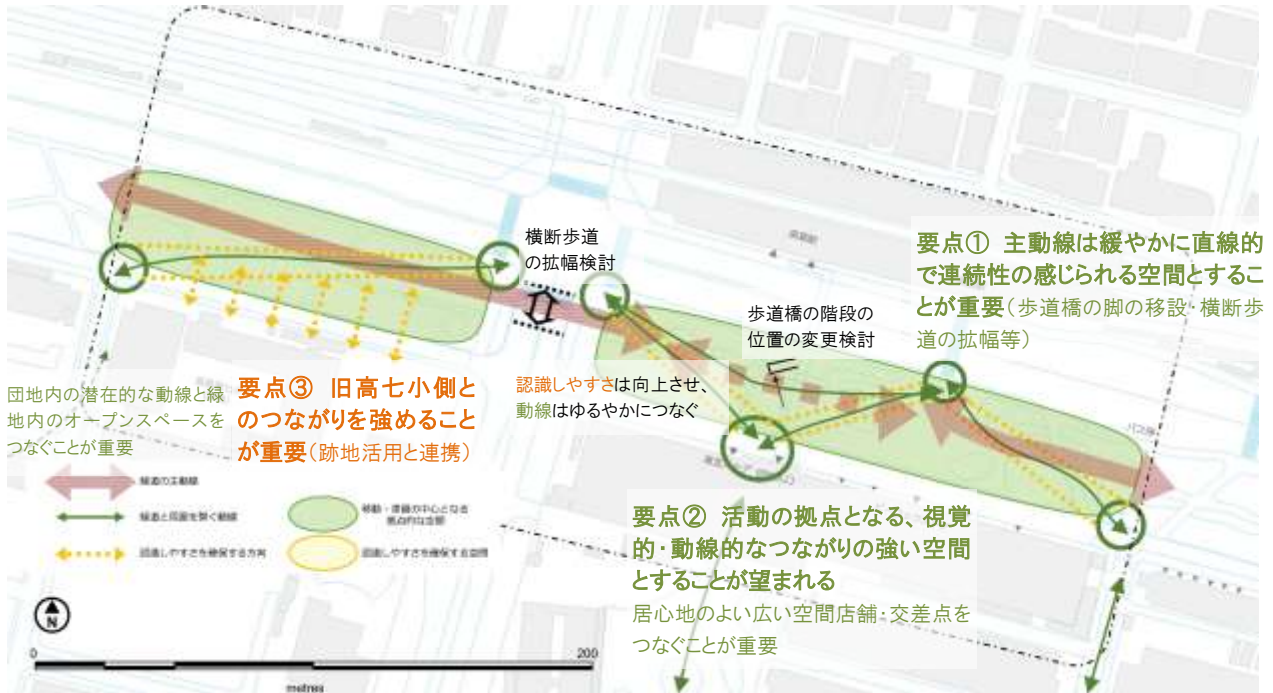


周囲との空間的な関係が弱い歩道橋(要点②(1))



緑地と建物側の関係が弱い部分(要点④⑤)

■高島平駅周辺ゾーン



歩道橋の脚により動線・視線が遮られている(要点①)

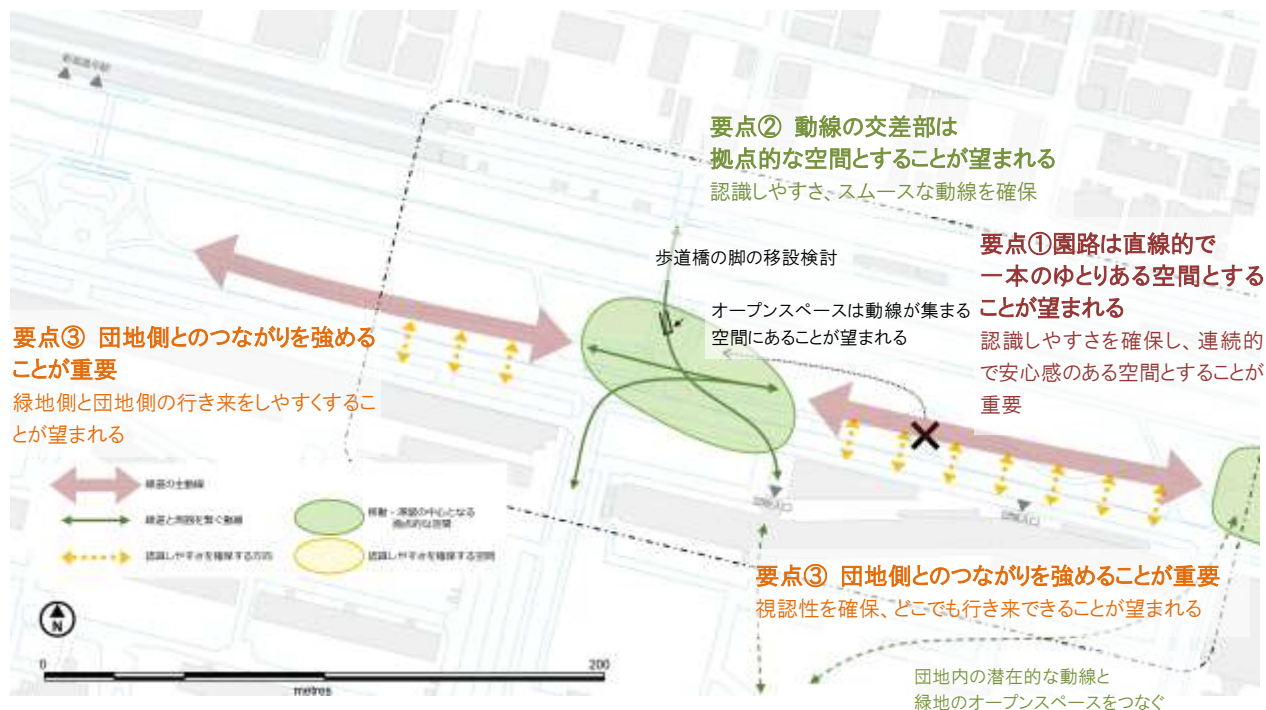


主動線周辺に滞留空間を配置した居心地の良い空間の例(要点①②)



歩道と緑地の行き来がしづらい状況(要点③)

■新高島平－高島平駅間ゾーン



植栽により歩道と緑地が行き来しづらい状況(要点③)

■新高島平駅ゾーン



緑地とのつながりが悪い交差点部(要点①)



認識しにくく、つながりの悪い歩道橋(要点②)



植栽により歩道と緑地が行き来しづらい状況(要点③)

■西高島平駅ゾーン



狭い園路(要点①)



車道による園路の分断(要点①)



植栽により歩道と緑地が行き来しづらい状況(要点③)

2 区民ニーズの把握

(1) プロムナード研究部会による勉強会

基本構想の策定に向けて住民（公募）・地域活動団体[民]、学識経験者[学]、行政機関[公]等をメンバーとして立ち上げられた「プロムナード研究部会（アーバンデザインセンター高島平の研究プロジェクト）」の下部組織として一般公開型の勉強会を設置し、区ホームページや町会・自治会掲示板へのポスター掲示等を通じて、広く声をかけ、地域住民や大学生等も交えて「まち歩き」や「ワークショップ」、「学生提案」等を通じ、意見交換を行いました。

①平成 28 年度第 1 回プロムナード勉強会

■実施概要

- ・開催日時：平成 28 年 6 月 12 日（日） 13 時 00 分～17 時 10 分
- ・場所：高島平団地 2-32-2 号棟 集会所 u2・3
- ・内容：①ディスカバリーウォーク（まち歩き）
 - ②プロムナードについての意見交換（魅力的な所・改善が必要な所、課題・やってみたい使い方、過ごし方・自分ができること）
 - ③発表
- ・参加者：37 名（[民] 13 名、[学] 17 名、[公] 7 名）
【住民 13 名、学識経験者 7 名、学生 10 名、UR3 名、区職員 4 名】



■全体意見概要

i 魅力的な所（気に入った所）

【交通・動線】

- 車が入ってこないエリア

【緑】

- 高木だけでなく草花も含めた多彩な樹種
- ケヤキやサクラ等の並木
- クスノキ、ケヤキ、メタセコイア等の大木

【水辺】

- 高島平駅付近の緑地の水辺で子どもたちが遊んでいる一帯

【にぎわい】

- フリーマーケットなどによる高島平駅前の広場のにぎわい
- 団地1階沿道のコミュニティカフェのにぎわい 等

ii 改善が必要な所、課題

【交通・動線】

- 歩行者と自転車、自動車の交錯改善
- 交差点部の迂回動線の改善
- 歩行空間の段差・不陸改善（バリアフリーへの対応）

【緑】

- 樹木密度の高い場所の改善

【水辺】

- 水面へのアクセス性の確保
- 噴水施設の改善

【施設】

- トイレ、ベンチ、あずまや、街灯等の老朽化対策
- 街灯、サイン等の設置

【その他】

- 都営三田線の高架下との一体感創出
- ごみの散乱対策 等

iii やってみたい(真似したい)

使い方・過ごし方

【使い方・過ごし方】

- 清掃（ごみ・落葉・落ち枝拾い）
- 季節感のある植栽、地元による植栽の管理
- 大道芸やオーケストラ等のパフォーマンス
- 健康増進につながる活動
- 屋外アート展示
- キッチンカーやカフェ等による飲食物と休憩場所の提供
- 古本市等のマーケット
- 国際交流
- 水田や畑等での耕作
- 水の流れを活用した活動
- ピクニックやBBQ 等

iv 自分ができること

【個人的あるいはグループで】

- ボランティアでのごみ・落ち葉拾い、季節の花植え
- 池の清掃に関するボランティアの編成・実施
- 本取組を知人に伝える
- 地域内の専門家とのネットワークづくり
- フリーマーケットへの参加
- 高齢者と子どもを引き合わせるイベントの企画
- 授業の演習課題としての設定 等

■まちあるき全ルート



②平成 28 年度第 2 回プロムナード勉強会

■実施概要

- ・開催日時：平成 28 年 9 月 10 日（土） 10 時 15 分～12 時 15 分
- ・場所：高島平地域センター 第一洋室
- ・内容：①東京大学演習課題成果発表
②「高島平プロムナード基本構想（素案に向けた提言）」についての意見交換（整備方針・ゾーンごとの整備方針）
③発表
- ・参加者：26 名（[民] 7 名、[学] 13 名、[公] 6 名）
【住民 13 名、学識経験者 7 名、学生 10 名、UR3 名、区職員 4 名】
※別途、オブザーバー参加 3 名



■整備方針に対する主な意見

方針① 歩きたく、憩いたくなる場づくりを行う

- ・地味な存在である徳丸ヶ原公園で民間企業等と連携してはどうか
- ・高架下の上部空間がもったいない
- ・要所に水飲み場が設置されていると、歩きやすくなる

方針② プロムナードを活用し、にぎわいや地域の活動を創出する

- ・図書館機能の拡充や緑地で絵本を読む会やブックカフェがあると良い
- ・緑地でのバザールを起こし、儲けられる、自己実現できる場とする
- ・設備を固定せずにできるカフェが展開できると良いのではないか

方針③ 心と体の健康づくり、子どもの教育、様々な人々の社会参画に貢献する

- ・プロムナードを園庭利用する保育園があってもよいのではないか
- ・プレイパークや、走る人、歩く人のためのサイン等を設置できないか
- ・団地ランを実施できないか

方針④ 緑の適正な育成・管理を進める

- ・樹木を適切に間引く理由を明らかにして、緑地内で遊具等の材料として再利用する
- ・住民が好きに使える花壇スペースを設ける
- ・花が欲しい。匂いや香りも快適な環境づくりの重要な要素となる

方針⑤ 沿道と一体となった空間づくりを行う

- ・コミュニティカフェ等を沿道に誘致し、緑地と関わりやすくする
- ・放置自転車対策の記載が必要
- ・旧高七小には、健康、スポーツ関連の施設を導入することで方針③と相乗効果を期待できる

方針⑦ ユニバーサルデザインの考えに基づく整備を行う

- ・公園や駅周辺に公衆トイレが少ない（あっても汚い）
- ・横断歩道と遊歩道のつながりを強化する上で、子どもの安全性・自転車の侵入防止の両立が求められる

方針⑧ 広域的な役割を果たす

- ・緑が多いのを活かしてサイクリングロードを設置する
- ・全体のネットワークの中で美術館等を巡る中継基地にしても良い
- ・公園と公園を結ぶ
- ・他の地域との関係性や関連が見えてくると良い

方針⑨ 開発当初の計画意図を大事にする

- ・高島通りの排気ガスや騒音から守る機能の再検討
- ・水環境を大切にし、ビオトープのあり方を再検討

※各方針の文言は、勉強会実施当時の文言です。「方針⑥ 防災・防犯の向上に貢献する」については特に意見が出されませんでした。方針⑧、⑨は追加提案として出された意見です。

■ゾーンごとの整備方針に対する主な意見



■東京大学工学部（4年生）からの提案

東京大学工学部都市空間デザイン専攻（4年生）のオムニバス演習の対象地として高島平地域が取り上げられ、6月中旬から7月中旬までの約6週間、まち歩きや各種調査等を経て、「高島平プロムナード整備～人と地域を結ぶ緑のリボン～」が提案されました。高島平地域やプロムナードの現状把握・分析から、整備方針や整備イメージ、そして西台駅前プロムナード及び高島平中心交差エリアについて公共空間のイメージが提案されました。

発表資料（抜粋）

～人と地域を結ぶ緑のリボン～

高島平の中心にまたがるプロムナードにおいて
新たな活動の場を創出し、回遊性も向上させることで
これまで以上に緑に親しむライフスタイルを育み、
さらに街区の枠を超えた人と人との関わりを促すことで
高島平地域の連帯感を高めることに寄与する

- ・プロムナードは高島平地域の中心を通り、それぞれの住宅地を結んでいる
 - ・高島平地域の緑地の中でも、特に生活動線[®]との関わりが深い
- ※通勤通学時の横断、沿道での買い物や公共施設利用など

全体整備方針

- ① プロムナードは緑の量をおおむね維持しつつ、地域の新たな活動が生まれ、地域住民の生活に潤いをもたらす場所とする
- ② プロムナードをリボンに見立て、特に東西のリボンと人の流れが交わる「結び目」を中心として再整備する
- ③ 既存の広場空間や未利用地を有効活用し、新たな活動を生む「結び目」を創出する



③平成 29 年度第 1 回プロムナード勉強会

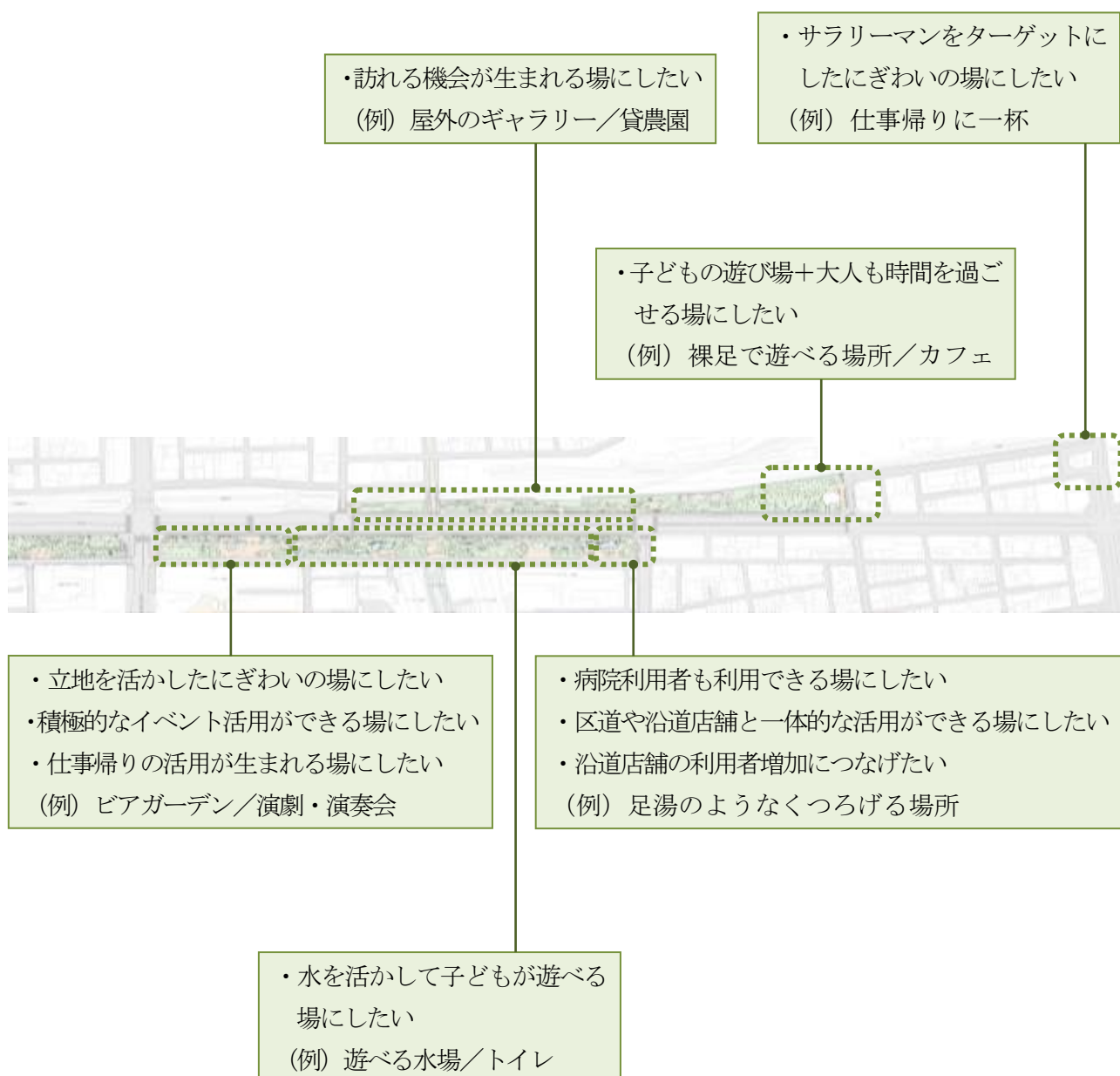
■実施概要

- ・開催日時：平成 29 年 7 月 8 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分
- ・場所：高島平区民館
- ・内容：①活動イメージ写真を用いた、高島平駅周辺ゾーン～西台駅周辺ゾーンの活動のイメージ出し
②発表
- ・参加者：25 名（[民] 12 名、[学] 10 名、[公] 3 名）
【住民 12 名、学識経験者 6 名、学生 4 名、区職員 3 名】



場所を特定しない意見

- ・安心して利用できる場所にしたい
 (例) 照明の更新で夜も明るく／防犯対策で安心できる環境づくり
- ・自然と共生できる場所にしたい
 (例) 芝生など、自然と共存できる地面の設え
- ・プロムナードの利用を促進させたい
 (例) アクセス性改善／歩きたくなる、変化のある雰囲気づくり／触れるアート作品の配置
- ・プロムナードでの活動を活性化させたい
 (例) 高島平新聞と連携して情報発信／UDCTak の取組が重要／区道と緑地の一体的活用
- ・愛着の生まれる場所にしたい
 (例) プロムナードに名前をつける／バリアフリーの配慮が必要
- ・整備の実現性を高めていきたい
 (例) 短期・長期での効果的な整備の実施



④平成 29 年度第 2 回プロムナード勉強会

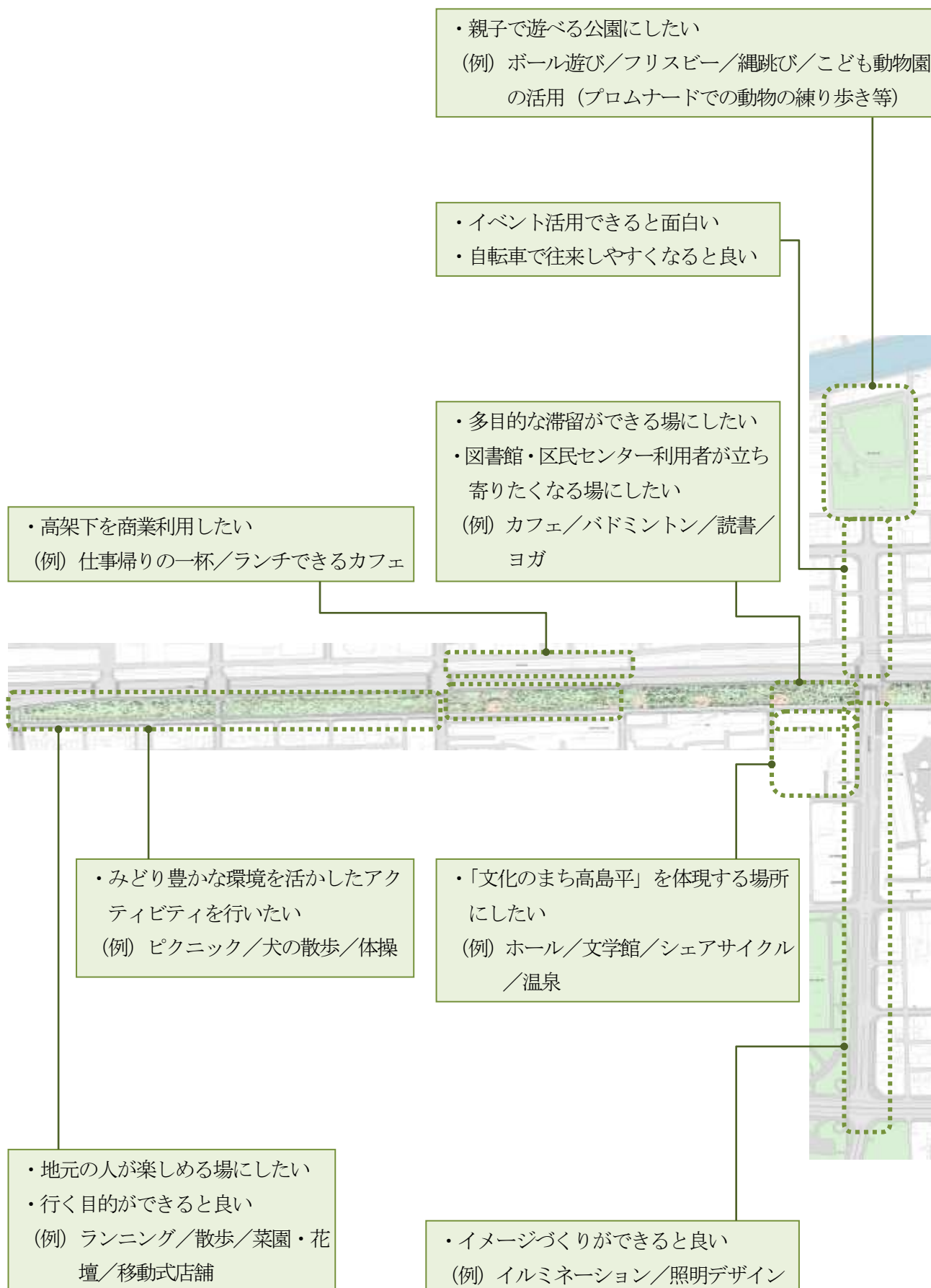
■実施概要

- ・開催日時：平成 29 年 8 月 8 日（火） 18 時 30 分～20 時 30 分
- ・場所：高島平区民館
- ・内容：①活動イメージ写真を用いた、新高島平ー高島平駅間ゾーン～西高島平駅周辺ゾーン、南北軸北側ゾーン～南側ゾーンの活動のイメージ出し
②発表
- ・参加者：27 名（[民] 15 名、[学] 9 名、[公] 3 名）
【住民 15 名、学識経験者 6 名、学生 3 名、区職員 3 名】



場所を特定しない意見

- ・高架下が活動できる場になると良い
（例）仕事帰りに一杯
- ・子どもが楽しめる場所にしたい
（例）子どもの飲食の場／子ども向けの遊び・イベント
- ・若者を呼びたい
（例）最先端技術の導入
- ・緑は基本的に残しながら整備していきたい
（例）裸足で歩ける芝生＋カフェ



⑤平成 29 年度第 3 回プロムナード勉強会

■実施概要

- ・開催日時：平成 29 年 9 月 28 日（木）～10 月 1 日（日） 11 時 00 分～17 時 00 分
（初日のみ 16 時 00 分まで）
- ・場所：高島平駅前交番に隣接する広場
- ・内容：①パネルを用いたプロムナード基本構想の説明
②基本構想の内容について意見交換
- ・参加者（回答者）：41 名



■整備方針等に対する主な意見

方針① 歩きたく、憩いたくなる場づくりを行う

- ・グリーンテラス[※]のような憩いの場があると良い。
- ・水辺をきれいにしてほしい。水路は、皆の憩いの場でありとても重要である。
- ・ベンチ等で一休みできる休憩場所が欲しい。
- ・誰でも気軽に過ごせるスペースづくりが重要だと思う。
- ・犬を連れてこられるような休憩空間、飲食空間が欲しい。
- ・休憩場所として屋根があると立ち寄りやすいのではないかな。
- ・歩行者、自転車それぞれが安心して通行できる道にしてほしい。
- ・話す場所、集まれる場所が欲しい。
- ・子どもが遊べる水景施設が一部にでもあると良い。
- ・足湯や足水があると良いかもしれない。
- ・二丁目の水路をビオトープにできると良いのではないかな。
- ・既にある空間を有効活用して、うまく生かす視点も大切だと思う。
- ・中～大学生、社会人が安心、安全に過ごせる空間になると良い。

※平成 29 年 9 月末に高島平駅前交番裏の緑地内で実施した高島平プロムナード活用社会実験の名称

方針② プロムナードを活用し、にぎわいや地域の活動を創出する

- ・ 見ているだけでも楽しめる場所があると良い。
- ・ 散歩するだけでなく、お茶やコーヒー、ビール等が飲めるカフェやビアガーデン等の場所があると良い。
- ・ 演劇や演奏会が実施できる場があると良い。
- ・ お洒落なお店やちょい飲みできるお店、ランチできるカフェがあると良い。
- ・ コンパクトで小回りの利く屋台が出店しても良いのではないかな。
- ・ スラックライン*の様なスポーツができると良い。
- ・ 期間限定でも、定期的に若い人向けのヨガ教室や高齢者向けの気功教室、体験型のマッサージサービス等を開催してはどうか。
- ・ 気軽に来てもらうためには、お洒落にしすぎず低価格帯で商品を提供した方が良いかもしれない。そうすることで、特に高齢者が立ち寄りやすくなる。
- ・ あまりにぎやかになり過ぎず、ちょっとコーヒーを飲めるような空間づくりをしてほしい。
- ・ 人を引き込むためには、音楽があった方が良いのではないかな。
- ・ あまり早くに店舗が閉まるとパートタイマーで働く主婦が利用できない。

方針③ 心と体の健康づくり、子どもの教育、様々な人々の社会参画に貢献する

- ・ 素足で遊べる場所があると良い。
- ・ 距離表示板があると良いのではないかな。
- ・ 子どもと自然学習できると良い。

方針④ 緑の適正な育成・管理を進める

- ・ 高島通りの歩道から緑地の中が見えると安心感があって良い。
- ・ 二丁目の水路付近の紅葉がきれい。
- ・ 樹木が豊富なのは地域の宝である。
- ・ 樹木で暗くなっている場所は適正に管理した方が良さそう。

その他 民公学等による進め方

- ・ 公民学が連携する取り組みはとても良い。
- ・ 自分の特技やできることを活かしてUDCTakと連携して活動したい。
- ・ ハードとソフトが連動していくと良い。
- ・ 社会実験のような取り組みの告知を広い範囲に広報してほしい。
- ・ 書面によるアンケートだけでなく、今回のように直接声を聞く機会を設けてもらえるのはとても良い。

※ベルト状のラインを利用したスポーツの一種。テンションを張ったラインの上でバランス感覚や集中力を鍛えることができ、綱渡りのように純粹に歩いたり、ジャンプや宙返り等をしたりする

(2) 高島平緑地の利用状況に関するアンケート調査

高島平緑地に対する若い世代（20歳代～40歳代）を中心に地域住民の認知度や印象、利用状況を把握するための民間ネットモニターアンケート、UDCTak 設立プレイベントにて利用者に対して街頭アンケートを実施しました。

①実施概要

■対象者：

- A. 高島平地域（高島平一丁目～九丁目）に居住する、民間ネットアンケートモニター登録者（登録者数 1,018 件）
- B. UDCTak 設立プレイベント来場者

■実施期間：

- A. 平成 28 年 9 月 9 日（金）～9 月 25 日（日）の 17 日間
- B. 平成 28 年 10 月 30 日（土）の 1 日限り

■配布回収方法：

- A. 上記対象者全員に配信、対象者が随時ホームページ上で回答
- B. 調査員が街頭でアンケートし、口頭及び直接記入で回答

■回収数（回収率）：

全体：178 件（A：162 件（15.9%）、B：16 件）

■回答者：

- ・高島平地域（高島平一丁目～九丁目）の人口の男女比は、ほぼ 5：5 であり、回答者の男女比はおよそ 6：4 となっています。
- ・他年代と比較すると、75 歳以上、20 歳代の回答が少なく、10 歳代の回答はないが、その他の年代（30 歳代、40 歳代、50 歳～64 歳、65 歳～74 歳）の回答を幅広く回収できています。
- ・線状に広がる高島平緑地の周辺に居住する広範囲の方から回答が得られました。

回答者属性(性別・年代別)(n=178)[人]

性別・年代	男性	女性
10 歳代	0	0
20 歳代	3	6
30 歳代	21	18
40 歳代	34	20
50 歳～64 歳	31	18
65 歳～74 歳	9	8
75 歳以上	7	3
合計	105	73

回答者属性(町丁目別)(n=175)[人]

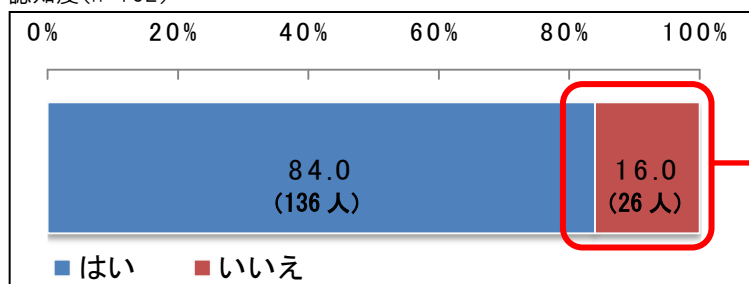
町丁目	男性	女性
高島平一丁目	15	11
高島平二丁目	26	24
高島平三丁目	9	7
高島平四丁目	3	2
高島平五丁目	7	1
高島平七丁目	9	8
高島平八丁目	10	7
高島平九丁目	25	11
合計	104	71

②結果

■Q1 認知度：高島平緑地があることをご存知でしたか (n=162)

- ・ 8 割以上が高島平緑地のことを認知しています。
- ・ 30 歳代、40 歳代の女性の認知度が比較的低くなっています。

Q1 認知度(n=162)



「いいえ」と回答した回答者属性
(性別・年代別)(n=26)[人]

性別・年代	男性	女性
10 歳代	-	-
20 歳代	1 (33%)	0
30 歳代	4 (20%)	5 (28%)
40 歳代	4 (13%)	5 (25%)
50 歳～64 歳	5 (17%)	2 (13%)
65 歳～74 歳	0	0
75 歳以上	0	-
合計	14 (15%)	12 (18%)

内訳

■Q2 印象：高島平緑地にどのようなイメージをお持ちですか (いくつでも) (n=162)

- ・ 緑の魅力や交通の安全性に対して高い評価が得られている一方で、ベンチや街灯等の施設の老朽化や夜間の安心感不足、緑の生育・管理状況等が課題として挙げられています。
- ・ その他 (自由回答) は、「自転車の乗り入れ禁止なのに全く守られていない、犬の糞尿臭がひどい」等、課題となる内容が挙げられています。

Q2 印象(n=178)

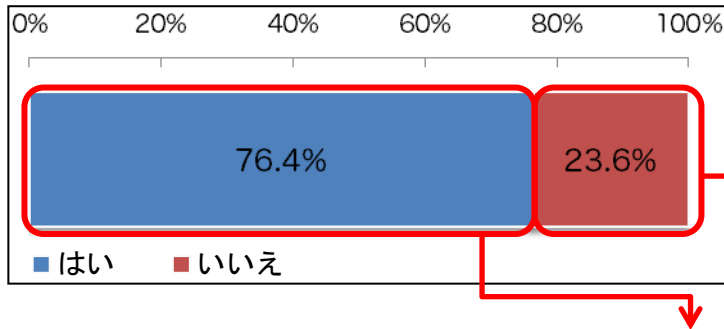
※赤色項目は課題項目



■Q3 利用歴：高島平緑地を利用したことがありますか (n=177)

- ・「Q1 認知度」で8割以上が高島平緑地のことを認知していた一方、「知っているけど、利用したことはない」という回答者が2割程度いました。
- ・認知度と同様、30歳代、40歳代の女性の利用歴が低いことがわかります。

Q3 利用歴(n=177)



「いいえ」と回答した回答者属性
(性別・年代別)(n=42)[人]

性別・年代	男性	女性
10歳代	-	-
20歳代	0	1(17%)
30歳代	5(25%)	11(61%)
40歳代	6(19%)	7(35%)
50歳~64歳	7(23%)	3(19%)
65歳~74歳	0	2(33%)
75歳以上	0	-
合計	18(19%)	24(36%)

■Q4 利用度：どの程度、利用していますか (n=135)

- ・高島平緑地が様々な頻度で定期的に利用されていることが分かります。

Q4 利用度(n=135)



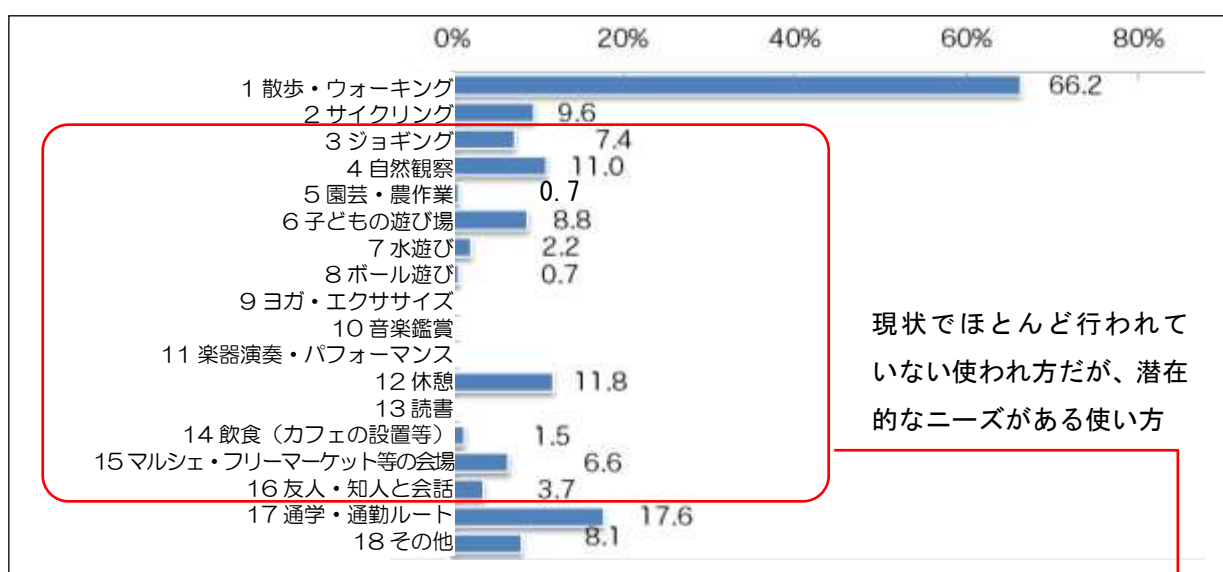
■Q5 使い方(現状)：高島平緑地をどのように利用していますか。(いくつでも) (n=136)

- ・圧倒的に「1 散歩・ウォーキング」が多く、次いで「17 通学・通勤ルート」、「12 休憩」となっており、現状の使われ方は日常生活の一部や生活の延長上で若干利用している程度にとどまっていることが分かります。
- ・サイクリングやジョギング、自然観察、子どもの遊び場としても使われてはいるものの、あまり多くありません。
- ・その他(自由回答)は、「駅に行く通り道、買い物ルート、子どもが幼少期の時に利用」等が挙げられました。

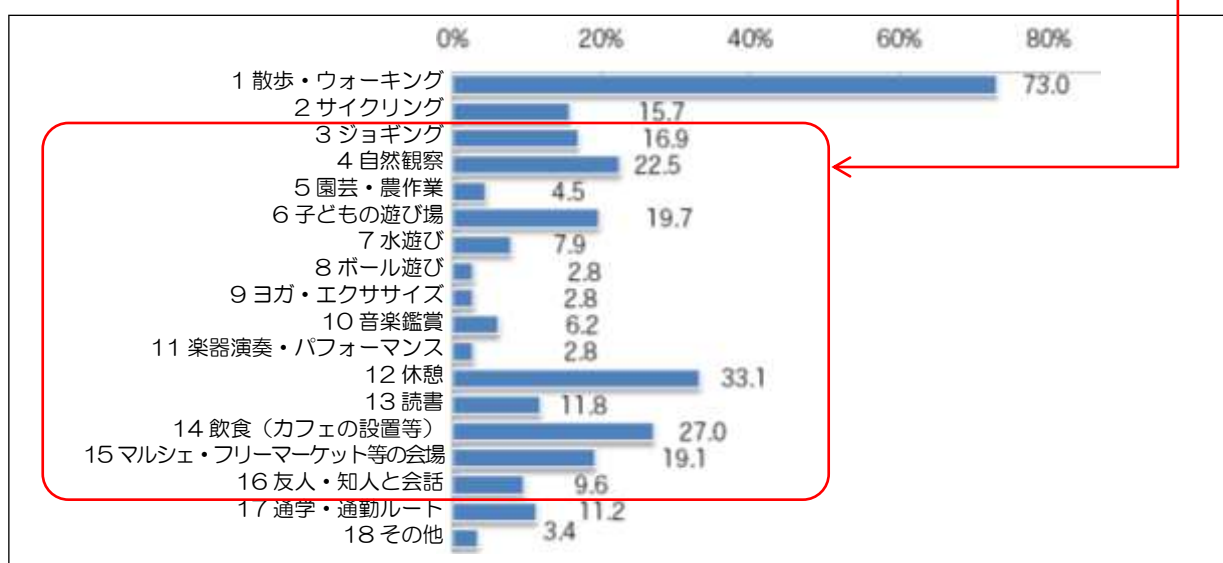
■Q6 使い方（今後）：もし、高島平緑地を利用する・利用できるなら、どうやって使いたいですか。（いくつでも）※すでに利用している方も、利用したことがない方も、今後してみたい利用目的についてお答えください。（n=178）

- ・Q5 と同様に、圧倒的に「1 散歩・ウォーキング」が多くなっていますが、次いで「12 休憩」、「14 飲食（カフェの設置等）」と、現状ではあまり高くない滞在機能を求める回答が高くなっています。
- ・現状で行われていない使い方でも、「13 読書」が1割以上も伸び、数としては多くないものの、ランドデザインの基本方針である「ウェルフェア」との関連性も強い「5 園芸・農作業」や「9 ヨガ・エクササイズ」、「10 音楽鑑賞」、「11 楽器演奏・パフォーマンス」が選ばれており、地域内に潜在的なニーズもあることが分かります。
- ・その他（自由回答）は、「ドッグラン、犬の散歩、通り道」が挙げられました。

Q5 使い方(現状)(n=136)



Q6 使い方(今後)(n=178)



■Q7 その他：自由回答 (n=112)

・長所

「緑が多くて気持ちが良い。落ち着いて疲れをいやすことができる。」(21件)

「緑・自然が豊かで気持ちが良い。」(10件)

「車を気にせず、安全にのんびり歩ける貴重な場所」(4件)

「良い取組だと思う。」(4件)

「緑地は高島平の貴重な資源・財産」(3件) 等

・課題

「夜になると暗く、物騒なイメージがあり、不安になる。明かりが必要である」(16件)

「虫や蚊、ブヨがいて困る。対策が必要である」(7件)

「ごみや鳥の糞で汚い場所がある」(6件)

「殺風景で面白くない」(5件)

「路面がデコボコしていたり、歩道に土が流れていて歩きにくい」(5件) 等

・アイデア

「ベンチやちょっと座れる石でも用意できると良いと思う。」(4件)

「カフェ等のお店があると良い。」(2件)

「フリーマーケットを高島平駅前だけでなく他の場所でも行って貰いたい。」(1件)

「みどり豊かにキレイな花が増えると嬉しい。」(1件)

「小さい子が集まる遊び場になると活気づいて良い。」(1件) 等

(3) バリアフリー推進協議会等への意向調査

プロムナードをユニバーサルデザインに基づいた、誰もが利用しやすい空間とするために、区のバリアフリー推進協議会と、高島平地域に在る特別支援学校2校に対し、意向調査を実施しました。

①実施概要

■対象者：

- ・板橋区バリアフリー推進協議会メンバー（18）【学識経験者3、障がい者団体4、地域活動団体3、公募区民等3、事業者2、関係公共機関3】
- ・都立板橋特別支援学校
- ・都立高島特別支援学校

■実施期間：

平成28年7月28日(木)～平成28年8月29日(月)

■設問数及び、回答方法：

全3問（記述式）、郵送・FAX・メールで回収

■回収数（回収率）：

5件（25.0%）

②結果概要

(問1) すべての人が利用しやすく、行きたくなる、憩いたくなる場合は、どういった空間ですか。

- ・散策の途中で休めるベンチや、飲み物を置ける小さなテーブル、休憩場所としてカフェ等がある空間
- ・木々の緑にあふれ、小川が流れ、足下の道の両側には花壇等に花が咲いている空間
- ・四季折々の季節を感じられる空間（人に紹介したくなるような写真映えする空間）
- ・高齢化が著しく高いまちであり、健康まちづくりを促進していくことが鍵となる。高齢者の一番の外出目的は、買い物というデータがあり、こうしたこともヒントとして、外出したくなるまちづくりをめざす。
- ・利用者のニーズにあった空間
- ・特定の利用方法に限らず、多様な利用方法を提供できる空間。
- ・適正に樹木が管理された空間
- ・幅員が広く、視界に物がごちゃごちゃしていない、広く感じられる空間
- ・雑踏ではくつろげない。地元住民が、普通に、ふらっと行ける雰囲気のある空間（プロムナードのコンセプト＝ふらっと）
※ふらっと＝フラット：わけ隔てのないという意味で、バリアフリー（ユニバーサルデザイン）にも通じる。
- ・街並みに統一感がある（看板等がない、あっても控え目で色調等が統一）。
- ・生活感のある食料品等の買い物は商店街が担い、生活感を感じさせない差別感が大切（通勤通学の自転車、放置自転車等があると生活感丸出しになってしまうため、その対策となる自転車置き場の充実も必要）

- ・平日昼間のメインの利用者となる、子ども連れの主婦層をターゲットとした空間形成
- ・清潔感があり、点字ブロックや、見えやすい道路標示、音声案内があり、障がいをもつ人にも優しい空間
- ・シンボル（ランドマークのような）があり、人が集まりやすい空間
- ・一部の世代のみをターゲットにするのではなく、時間帯や季節によってターゲットを変えられる空間。

(問2) 参考にして欲しいまちは、どこですか。その理由は、何ですか。

- ・ **神保町**：“ふらっと”“ぶらぶら”といったイメージに近い（靖国通り沿い）。もっと歩道が広く、沿道に休憩場所がある。
- ・ **国立市**：メインの大通り（学園通り）にほとんど高い建物が面しておらず、外観の雰囲気の良い飲食店が多い。また桜だけでなく植樹帯の低木も種類が多く新緑の季節も美しい。
- ・ **丸の内**：東京駅前の広場や行幸通り等周辺道路のイルミネーションイベント等、訪れたい空間演出がある。
- ・ **舞浜にあるテーマパーク**：階段でしか行けない場所がなく、場所ごとにスロープやエレベーター等が必ずある。スロープは幅員が広く、勾配もゆるやか、路面に凹凸が少なく、車いすや乳母車の走行性もよい。道を通る上で障害になりそうなもの、道に面している物のほとんどは丸みを帯びていて角が少なく、障がい者用のトイレが必ずある。その場その場の雰囲気に適した道、程よく日陰や木陰、ベンチ等の休める場所があり、休憩や座って会話ができ、季節を感じられる植栽も設置されている。
- ・ **川崎市の川崎駅や武蔵小杉駅近接の大型商業施設**：広場があり開放感を演出している。その広場はクリスマスや正月、こどもの日等各イベントで飾り付けを行い、それを見にまた人が集まるといった好循環が生まれている。
- ・ **光が丘公園**：幅広い年代の方、多種多様に公園を利用しており、光が丘公園があることで人々の生活を豊かなものになっている。
- ・ **ハイライン（NY）**：廃線の貨物列車の高架橋を改築して作られた空中庭園で、景色が良く、都心でありながらゆっくり過ごせる場所。
- ・ **代官山にある集合住宅、店舗、オフィスなどから成る複合施設**：洗練されている空間。
- ・ **サンフランシスコのロンバードストリート**：世界一曲がりくねった坂道（1ブロックに8つの急カーブ）くねくねした坂道であるが、脇の花壇が整備されていて綺麗。花壇ひとつで街の魅力が高まるという点で大いに参考になる。
- ・ 国交省の「**健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン**」や「**特定非営利活動法人健やかまちづくり**」の活動は、参考になる。

(問3) 自由意見（再整備に向けた要望等）

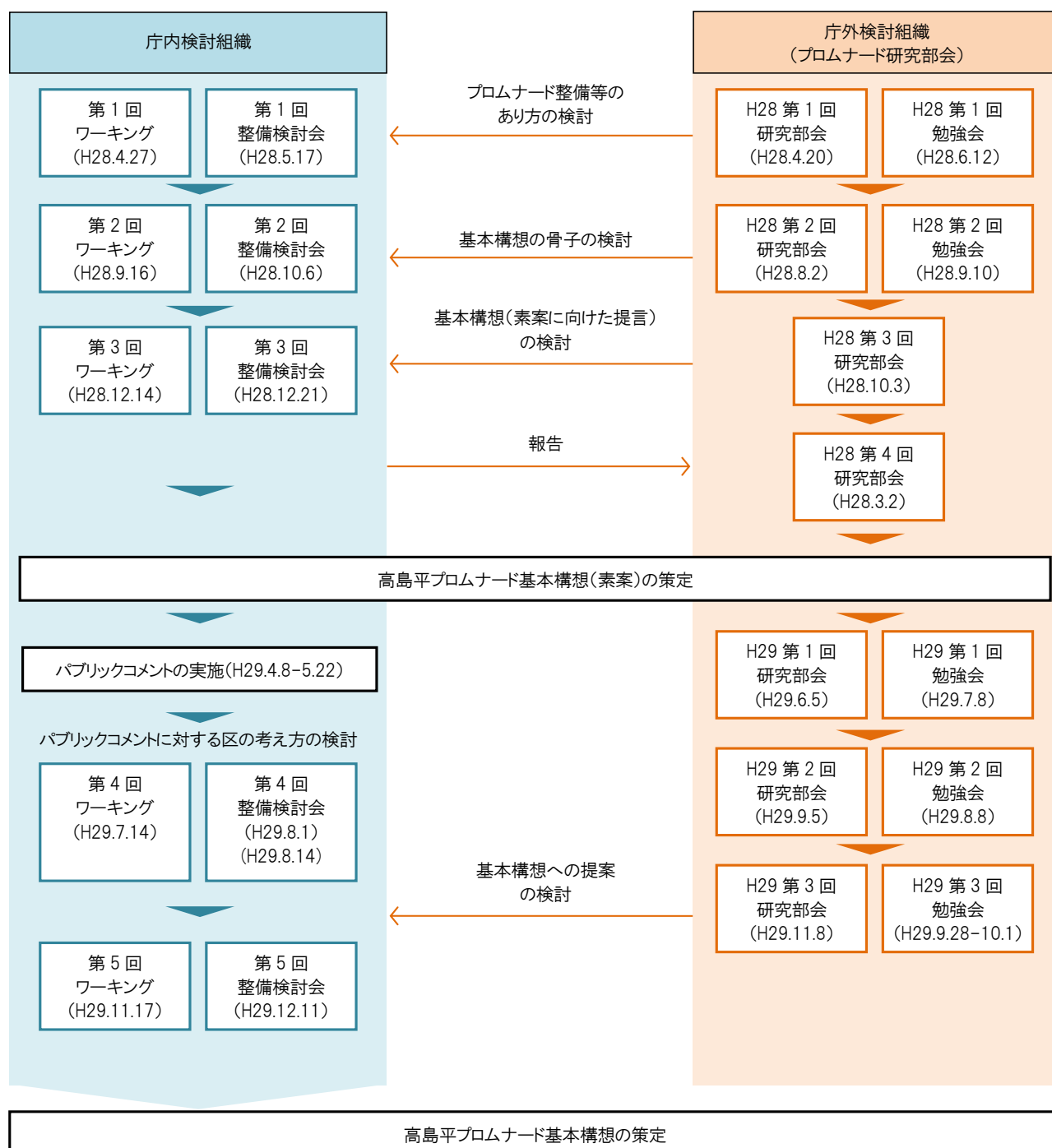
- ・視覚障がい者、車いす使用者及び、地元住民等に、それぞれ実際に歩いてもらったり、憩いの時間を過ごしてもらったりして、利用形態を想定してのモニター調査の実施。
- ・歩行者と自転車の動線分離。
- ・旧高七小跡地を含む周辺公共施設用地の再整備に際しては、最新の技術を導入したり、新素材を使用する等したりして、様々なチャレンジをして夢のあるものとする。
- ・使用目的が限定される箱物ではなく、自由に設置や撤去できる組み立て式テント等を複数設置して、多目的利用の取組を求める。
- ・雰囲気づくりには、沿道の店舗にも協力を求める。
- ・板橋区らしい独自の視点が入ることを期待。

3 検討体制・検討経過

プロムナード基本構想の検討は、「民・学・公」連携組織として平成28年11月に発足したアーバンデザインセンター高島平（UDCTak）に設置された「プロムナード研究部会」での検討・提言を受けながら、庁内検討組織である「高島平プロムナード整備検討会（課長級）」と、その下部組織となる「ワーキンググループ（係長級）」において検討を進めました。

プロムナード研究部会での検討にあたっては、住民や学生が自由に参加できる開かれた勉強会を延べ5回開催しました。

区では、プロムナード研究部会からの提言以外にも、素案のとりまとめ後に住民説明会やパブリックコメントを実施し、区民、事業者の方々から広く意見を募集しました。また、東京都やUR都市機構など関係機関との協議・調整も必要に応じて行っています。



<庁内検討組織>

○高島平プロムナード整備検討会（◎リーダー）

・構成：16名（関係15課）

◎都市整備部長、政策経営部 政策企画課長、資産活用課長、
危機管理室 防災危機管理課長、産業経済部 産業振興課長、
健康生きがい部 おとしより保健福祉センター所長、福祉部 障がい者福祉課長、
資源環境部 環境課長、環境戦略担当課長^{※1}、都市整備部 都市計画課長、
高島平ランドデザイン担当課長、土木部 管理課長、交通安全課長、計画課長、
みどりと公園課長、公園整備担当課長^{※2}

※1：平成28年度第2回より参加 / ※2：平成29年度より参加

○ワーキンググループ [係長級]（◎リーダー）

・構成：17名（関係14課）

◎高島平ランドデザイン担当課長、政策企画課 政策第一グループ、
資産活用課 施設整備活用係、防災危機管理課 計画推進グループ、
産業振興課 商工振興グループ、おとしより保健福祉センター 地域ケア政策担当係
障がい者福祉課 ユニバーサルデザイン推進係、環境課 環境調査係、
環境戦略担当課 環境政策グループ、都市計画課 都市景観担当係、
拠点整備課 特命事業グループ^{※1}、拠点整備課 調整グループ^{※2}、
土木部 管理課 道路管理係、交通安全課 自転車グループ、計画課 計画調整グループ、
みどりと公園課 公園管理グループ、公園計画グループ、北部公園事務所

※1：平成28年度第2回より参加 / ※2：平成29年度より参加

<庁外検討体制（UDCTak）>

○プロムナード研究部会（◎リーダー）

・構成：15名（敬称略・順不同）

(学) ◎東京大学大学院 准教授 中島直人（都市デザイン、都市景観）、

大東文化大学 講師 飯塚裕介（都市計画・防災計画）、

東京農業大学 准教授 阿部伸太（造園・ランドスケープ）

(民) 町会連合会 高島平支部長 廣瀬佐平、商店街連合会 第七支部長 山本光雄^{※1}、

商店街連合会 メトロード西台商店会 会長 坂田新一郎^{※2}、

肢体不自由児者父母の会 会長 藤井亜紀子、

板橋区手をつなぐ親の会 副会長 丸山由美子^{※2}、生駒公彦(公募委員)、

北野智美(公募委員)、石田ゆかり(公募委員)、佐々木麻衣子(公募委員) ^{※1}、

中谷友紀(公募委員) ^{※1}

(公) UR都市機構 東京北エリア経営部 団地マネージャー 石垣貴伸、

拠点整備課 特命事業グループ^{※1}、拠点整備課 調整グループ^{※2}、

みどりと公園課 公園管理グループ、みどりと公園課 公園計画グループ、

みどりと公園課 公園改修グループ^{※2}

※1：平成28年度のみ参加 / ※2：平成29年度より参加

高島平プロムナード基本構想

～高島平の自慢となるみどり豊かな居場所の実現に向けて～

編集 板橋区都市整備部高島平ランドデザイン担当課

〒173-8501 板橋区板橋 2-66-1

TEL:03-3579-2183 FAX:03-3579-5437

E-Mail:takamachi@city.itabashi.tokyo.jp

平成 30 年 1 月発行

刊行物番号 29-149



板橋区 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号 URL <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/>